

○日時 2018年1月5日(金)～1月6日(土)

○会場 埼玉県浦安市運動公園総合体育館

○講師 (5日)上田篤拓氏、平育雄氏、加藤誉樹氏、漆間大吾氏、佐藤誠氏、片寄達氏

(6日)上田篤拓氏、平育雄氏、関口知之氏、有澤重行氏、堀内純氏、細田知宏氏

○スケジュール

5日(金) 講義研修(研修の目的、3POメカニクス、FIBAレフェリーとして)

実技研修

コート研修(プレゼンテーション)

6日(土) ワークショップ(英語でのディスカッション)

実技研修

○研修内容

I: 研修の目的 講師; 平氏

研修を始める前にU32YOCの目的についての話があった。早期育成プロジェクトとして行っており、昨年までは天皇杯・皇后杯を用いて観戦研修として行ってきた。育成にも変化が必要ということで今回から新しい形としての研修となり、この変化にも対応し積極性をもって臨んでほしいとのことだった。

II: 3POメカニクスについて 講師; 上田氏

ゲームの映像を見ながら3POのベーシックなメカニクスやプライマリエリア・プライマリアングル、チェックイン・チェックアウトについての説明があった。エリアだけでなくアングルも重要だということ。アングルを変えることで良い判定につながるとのこと。

III: FIBAレフェリーとして 講師; 加藤氏

「トップレフェリーに必要な要素は何か」というテーマについて、参加者30名の意見を出しあった。この中には正解はなくどれも必要なことであるということ。今回この研修で集まったからには、お互いに高め合い、この研修を成功に導くことが大切であるということ。また、ここで学んだことを各県に持ち帰り還元していくことも大切である。FIBAレフェリーはどのような管理をされているのか等のお話も聞くことができた。

IV: 実技研修

全て3POで実施。基本的にメカニクスについてのアドバイスをいただいた。

トレイルでのプレーの見方やリードのスイッチするタイミング、センターの体の向きなど。どの位置でもアングルを取るための工夫が大切だということ。また、実技研修を通して声を使うことの重要さを伝えられていた。レポート時やプレー中にも声を有効活用することが大切だということだった。

V: コート研修 講師; 上田氏

上田氏に解説をいただきながら、加藤氏・漆間氏によるデモンストレーションが行われ

た。内容は①チェックイン・チェックアウトする際の体の向き、②レポート後のローテーション、③プレゼンテーションについて行われた。プレゼンテーションについて、声の大きさが全然違い、声の大切さを感じた。プレー中は何が起こってもすぐ対応できるように笛はくわえたま話すことが大切。

VI：ワークショップ

5班に分かれ事前に配信されていた映像を見ながら、①メカニクス、②判定、③プレゼンテーションについて英語でディスカッションを行った。その後、それぞれのテーマについて出し合った意見を発表した。積極的にコミュニケーションをとることを心がけて取り組んだ。

VII：所感

全国から集まった同年代の方々と意見交換ができたことはとても刺激的で勉強になることばかりでした。ここで学んだことを県内に持ち帰り今後の活動に活かしていこうと思います。

最後になりましたが、講師の方々はじめ日本バスケットボール協会審判部の皆様、またこのような機会を与えてくださった原田審判長、福岡ブロック長に心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。